

# 馳浩文部科学大臣

# 竹中博康石川県副知事

自身もレスリング日本代表としてロサンゼルスオリンピックに出場経験がある馳浩文部科学大臣と、大学時代、バスケットボール部で汗を流した竹中博康石川県副知事に、2020年東京オリンピックや専大スポーツへの思いなどを語っていただきました。



文部科学大臣  
馳 浩さん (昭59・国文)

はせ ひろし●1961 (昭和36)年、富山県生まれ。小3から金沢で育つ。星稜高校時代にアマチュアレスリングを始め3年次に国体優勝。専修大学レスリング部主将。卒業後、星稜高校国語科教員として教鞭をとる傍ら1984年ロス五輪レスリング・グレコローマン90kg級出場。プロレスラーを経て1995年参院選初当選。2015年10月より現職。日本文学風土学会会員。著書に「非常ベルは聞こえているか」ほか多数。



石川県副知事  
竹中博康さん (昭48・経営)

たけなか ひろやす●1950 (昭和25)年、石川県七尾市生まれ。専修大学ではバスケットボール部に所属。1973年石川県庁入庁。管財課長として県庁移転を指揮、商工労働部長、教育長を経て2012年より現職。教育長時代は県立高校入試の小論文廃止や体育専科を導入するなど教育行政改革に取り組む。石川の文化に磨きをかけて地域創生をめざす。石川県音楽文化振興事業団理事長など兼務。

—オリンピックという、どのようなことを思い出しますか？

馳●オリンピックという、(選手として出場した)ロサンゼルスオリンピックを思い出します。ちょうど大学を卒業した年の5月に代表が決定して、本番は夏でした。星稜高校の教員として出場しましたが、気持ちとしては専修大学レスリング部で力を蓄え、専修大学代表として出たつもりです。

竹中●前回、東京でオリンピックが

開催されたとき、私は中学2年生でした。ただ、会場へ観戦には行けなかったのが、2020年は本当に楽しみにしています。東京オリンピックではありませんが、専修大学時代、バスケットボールをしていたときに代々木第2体育館で行われていたオリンピックのアジア予選のお手伝いをさせていただいた経験もあります。そんなことも思い出されます。2020年は、是非観に行きたいと思っています。北陸新幹線も開通して近くなりましたからね。

—2020年の東京オリンピックへの思いをお聞かせください。

竹中●スポーツというのは、国民に元気を与えてくれるものなので、今年開催されるリオオリンピックもそうですが、熊本地震で被災された方々もいらっしゃるし、スポーツを通じて日

本が元気になってもらえればと期待しています。

馳●まず、専修大学から一人でも多くの代表選手が出場してほしいと思っています。専修大学はスポーツにいろいろと力を入れてくださっているの、どんな競技でもいいですから、一人で

## 一人でも多く、専大から オリンピックに出ていた だきたい

も多くの選手が母校を代表して出場してくれることを願っています。私も今レスリング部の名誉監督を務めていますので、レスリング部からさらに金メダリストを出せるように努力したいと思っています。

—個人的に東京五輪を楽しみにしているというところはおありですか？

竹中●会場で観戦したいですね。世界的な大会を生で観たことがないので、会場でゆっくり観戦したいと思っています。もし、専修大学から選手が出るのであれば、ぜひ応援に駆けつけたい。

馳●私は開会式をしているとき、駐車場の誘導係をするのが夢です。竹中先輩は開会式、中で観ていますが、私は外の駐車場の誘導係で開会式の音を聞きながら、オリンピックに参加したいと思っています。

オリンピックの開会式にも閉会式にも出ていますし、選手として出場もしています。唯一経験していないのが、スタッフとしてボランティアで参加することだからです。それに今まで応援していただいたおかげで、今日の私があるので、少しでも恩返しができるかなという思いもあります。

—専大スポーツへの思いをお聞かせください。

竹中●スポーツですから時代によって浮き沈みがあることも理解していますが、校友の一人として、やはり活躍してもらえればなと思っています。昨年

野球が優勝したときは、本当に嬉しかったものです。ただ、やはり駅伝に期待せずにはられません。テレビの視聴率も高いですし、母校が出ていると出ていな

いとは応援するときの力の入れようが違いますので。もちろん、テレビに出ないスポーツにも頑張ってもらいたいと思っています。

それから大学でスポーツをして社会へ出るという段取りになると思いますが、そういう人たちは、横のつながり、縦のつながり、体育会は今後ますますそういうところを大事にしていればなと思います。私も今、こんな仕事をしていますが、そういうつながりというのは専修大学では強く感じているので、プラスになっています。

馳●今日、こういう立場にいられるのも大学の4年間の体育会の活動がすべてであり、専修大学に進学したおかげだと思っています。ですので、後任を務めている久木留 毅監督(昭63・商業)のような良い指導者を大学へ残していくことが必要だと思っています。彼は、

大学でレスリング部に所属し、卒業後は青年海外協力隊でシリアに2年間行っていました。帰国後は、私の秘書をしていた時期もありました。その後、筑波大学の大学院を出て博士号をとって専修大学の教授となり、政府から依頼を受けてクロスアポイントメント制度(※)で5年間、日本スポーツ振興センターの研究員としてスポーツ政策の企画立案に参加しています。

専修大学の体育会でトップアスリートとして鍛えこんでいくと同時に、社会に出て貢献できる人材となる。社会へ出て仕事をしながらもいろんな社会貢献活動に携わって、そして多くの



おそろいの専大オリジナルネクタイを胸に

方に喜んでもらえるように貢献していく人材を専大の体育会から生み出し続けること。それは、私の使命でもあると思っています。

(4月23日取材 文中、敬称略)

## 馳浩文部科学大臣就任祝賀会

4月23日(土)、石川県金沢市の金沢都ホテル「鳳凰の間」で、馳浩文部科学大臣就任の祝賀会が開催されました。当日は、石川県支部の方々をはじめ、約80名もの校友が集結。馳大臣と楽しいひと時を過ごしました。



祝賀会へのお礼に始まり、祝賀会当日、埼玉県から駆けつけたお話しなど、会場を沸かせてくれました



石川県支部をはじめ、馳大臣を応援する校友が集まり、にぎやかな中、祝賀会が行われました



校友たちが座るテーブルを一つひとつ回り話に花を咲かせた馳大臣。中には、20代、30代の若手校友も



最後には、参加者全員で校歌を熱唱。専大のつながりを確かめ合い、会は終了となりました

※クロスアポイントメント制度  
研究者が大学、公的研究機関、民間企業のうち、2つ以上の組織と雇用契約を結んで、研究・開発および教育などの業務に従事することを可能とする制度。